

< 中国で経営管理のプロとして >

経営管理士 M.M (50代・中国 青島)

私は中国の日系製造メーカーで約10年間、経理部長を務めた後、現地の日系企業を主な顧客とする会計税務コンサルタント会社に転職し、現在は、会計税務の面から日系企業の運営をサポートする仕事をしています。

中国では、経理担当者の知識不足などの問題により、適切な会計処理がされていないことが多いです。また日本の消費税にあたる付加価値税（VAT）についてインボイス制度が採用されており、税制も複雑であることなどから、専門家のサポートが必要となるものです。

さて、中国には現時点で3万社以上の日系企業が進出しています。経済成長に伴う人件費コストの上昇や為替の要因により、ここ数年、日中の輸出入貿易額はわずかに減少傾向にありますが、依然として、最大の貿易相手国の一つであることには変わりがありません。日本のテレビや新聞は、中国の政治的な問題や不景気な部分にばかり焦点をあてがちのようにも思います。

とはいえ、コスト上昇により、中国でも企業経営が以前に比較して容易でなくなっ

ていることは事実と思います。自動車産業などでは、既に輸出がメインではなく、中国国内市場向けが中心となっている日系企業も少なくありませんが、多国籍な現地の企業との厳しい競争を強いられています。

ここにおいて経営管理の重要性が高まっています。現地でも、顧客や営業先から「経営面での指導もしてほしい」と要求されることが増えてきており、私は、今後中国でもこの面での遡及が強くなるとの考えから、経営管理士の資格を取得しました。

最も、自分が経営管理のプロとしてはまだまだ未熟であることは百も承知しております。さっそく「経営管理士」と名刺に刷らせていただきましたが、名乗るからには、中途半端なことはできないと考えております。協会の勉強会なども利用させていただき、学習に努めてまいりたいと考えております。先輩諸氏にも何卒アドバイス賜りたく、お会いできる機会をうかがってまいる所存です。

皆様と一緒に勉強させていただき、経営管理のプロとして成長していきたいと、何卒よろしく願いいたします。